

第15期 葛飾区社会教育委員の会議（第7回）会議録

● 開催日時 令和8年1月16日（金） 午後2時～4時

● 会場 区役所 703会議室

● 出席者

社会教育委員（7人）

大島 英樹 歌川 光一 竹内 理恵 藤野 尚子
増田 龍二 加藤 藍 伊藤 香織

事務局職員（3人）

生涯学習課学び支援係長 佐藤 吉裕
生涯学習課担当係長 柳澤 雅弘
生涯学習課学び支援係 矢作 孝寛

合計 10人

次第

議事

1 協議テーマについて

発表者 竹内委員、藤野委員

発表内容 ア 活動していること

イ 生活の中のPTA

ウ PTAはこうあってほしいと願うこと

2 その他

【配付資料】

・資料1 竹内委員 発表資料

・資料2 藤野委員 発表資料

—開会—

○事務局 ただいまから、第7回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。本日の欠席者は千葉委員、加藤委員、生涯学習課長、地域教育課の島村係長です。

次に傍聴についてです。本日傍聴者はいらっしゃいません。

続いて会議録についてです。前回の会議録は区のホームページにて公開しております。

本日の資料について確認します。次第、竹内委員の発表資料、藤野委員の発表資料をお配りしております。それから、竹内委員につきましては、パワーポイントで資料をお作りいただいたので、そちらを使って説明をお願いいたします。

それでは、この後の進行につきましては、大島議長をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○議長 皆さんこんにちは。今回は増田委員、加藤委員からご報告いただきました。本日は竹内委員と藤野委員からお話いただいて、またたくさんの知見が得られればと思います。それでは、竹内委員からお話をお願いします。

○竹内委員 皆さんこんにちは。それでは、お手元の資料とスライドを使って説明させていただきます。資料を見ていただくと分かるように、夫が転勤族の会社員です。子どもが3歳のときに、東京暮らしの私に、青森に転勤になったという連絡が入りました。知っている人が誰もいない青森に行った1995年から、この表はスタートしています。

10月に青森に転勤しました。また公園友達ができるだろうと思っていましたが、雪が降っているだけの広い公園で、誰も遊んでいませんでした。私はソリを持って遊びに行きましたが、青森の人にとって、公園は遊ぶ所ではなく、雪捨て場になっていました。

それから半年経って、幼稚園デビューで初めての友達ができるかもしれないと胸をワクワクさせて、子どもを幼稚園に入園させました。初めてそこで、友達ほしさにPTA役員に立候補しました。どんな活動をしたか覚えていませんが、何かの委員をやりました。運動会のお手伝いなど、ちょっとしたお手伝いをやったと思います。

そうこうしているうちに、今度は山形に転勤になりました。長男は1年生で次男が2歳でした。10月に転校しましたが、10月なのでPTAには入れず、2年生になったときに、友達ほしさにPTA役員に立候補しました。次男の幼稚園でも、PTA役員を引き受けました。すごく楽しい役員生活で、長男が5年生のときまで、そこでやりました。

PTAでは、いろいろなことを学校の先生に頼まれました。3年生ぐらいのときに、お花見をしたいのでお団子を買って来てもらえますかと言われ、お団子70本くらい買いました。あとは、授業でスキーがあって、ボーゲンを教えるくらいならと言ったら、指導者のゼッケンを渡されて、お父さん、お母さん20人ぐらいが、子どもたちと一緒にバスに乗ってスキー場に行き、ボランティアでスキーを教えました。

それから今度は東京に転勤になりました。4年に1回転勤が繰り返されました。長男は5年生になり、次男も小学生になっていました。そこでまた翌年、役員を引き受けました。その後、長男が私立の中高一貫校に入りました。そこでも少し心配だったので、PTA役員になりました。中高一貫校なので6年間やると言われ、初めて連続6年間、PTA役員をやりました。

さすが私立だと思ったのが、会議に1回行くと、交通費として1,000円支給されました。話を聞くだけの会議なのに、いつも豪華な折詰のお弁当が出ました。仕事としては、

学校の方針を聞くだけでした。日帰りバスハイクの行き先を決めるぐらいで、ほとんど仕事はありませんでした。

次男の小学校では、校外委員や成人など、毎年違うことをやりました。次男が6年生のときに、卒業対策委員長として、謝恩会でみんなの前で話すという、初めての大役をやりました。そうすると、中学校のPTAから目星をつけられて、中学校に上がると本部役員を勧められ、本部に入りました。本部役員になると同時に、お花茶屋地区委員会に入りました。そこで、今副会長としてやっている、子どもを犯罪から守るまちづくり活動へのお誘いがありました。

そのほかにも、いろいろなものが、本部役員になるとついてきました。それから、次男が高校生になり、友達ほしさに役員をやりました。2014年になると、双葉中学校から、学校評議員と青少年委員になってほしいと依頼があったので、お受けしました。ここまでが、今までの私の年表です。

次に、双葉中学校でどんな行事があったのか、写真で説明していきたいと思います。入学式、卒業式、これは立志式という2年生が主体の会ですが、そういうところに、PTAの本部役員は必ず来賓として出席することになっていました。

そのほかにも、70周年の行事に、会費を払って出席しました。運動会での受付、校内パトロール、広報の写真を撮る人たちのお手伝いとかをしました。地域で合唱コンクールがあつて、PTAのお父さんお母さんが前に出て、20人ぐらいで歌ったこともありました。このコンクールの審査員も務めました。百人一首大会では、保護者も参加できて、子どもたちが食べるお汁粉を作っていました。

子どもを犯罪から守るまちづくり活動を取り入れて、公園のベンチペイントを行いました。PTAということでサポートしたり、写真を撮って記録をしたり、子どもたちに上手だねと声掛けをしたり、区役所の公園課と連絡を取ったりしました。一緒にやった中学生が町であったときに、この前ベンチペイントと一緒にやった人だと声掛けをしてくれるようになりました。

ほかにも、双葉中学校の文化祭で作った衣装が、東京ホビーショーで文部科学大臣賞をいただきました。そのとき、子どもたちと一緒に有明に行きました。このとき、千葉委員も一緒に行きました。

このように、たくさん行事がありますが、コロナ以降なくなったPTA行事は何だか分かりますか。まだ区内のどこの学校もやっていないのではというのが、歓送迎会です。昔は先生方、地域の方、保護者で地区センターとかに集まって、1年に1回、5月ぐらいにありました。

○藤野委員 飲み食いはしませんが、中之台小ではやっています。新PTAと地域の顔合わせのため、お茶だけでやっています。

○竹内委員 歓送迎会は、唯一先生方と飲めて話せるいい機会だと思っていました。地区委員会では、新年会や総会などの飲み食いがある行事があります。お花茶屋地区委員会の行事は、ふるさと祭りという夏祭りをやって、スーパーボールすくいとかヨーヨー釣りとかをやっています。

そのほかに、子どもの引率でスポーツフェスタ。あとは、年1回の研修旅行。これは埼玉県の外郭放水路に行ったときで、こういう楽しみもあるのが地区委員会です。そのほか

の行事だと、少年の主張大会。またここにも千葉委員が写っています。このときには、青葉中の校長先生だったので、参加してもらっています。

あと、かるた大会。これも引率として地区委員会が、みんなを連れて行きます。みんなおそろいのTシャツをどのチームも作りますが、お花茶屋のTシャツは私がデザインしました。あとは、2014年から入っている青少年地区委員会、これも毎月第3木曜日に、自分たちの持っている引き出しを増やそうということで、定例会を行っています。

そのほかにも、青少年委員の発足70周年ということで、みんなグリーンジャケットを着ています。これは、成人式です。お酒を飲んでいる子を止めたり、喧嘩になりそうなところに男の人が入ったり、私は着付けのお直しコーナーに10年間いました。あとは、オリンピックのときのボランティア、それも青少年委員で申し込みました。これは先生とPTAと仲良くなりましょうということで、水元公園で5ブロックのバーベキュー大会を毎年行っていました。ここにも千葉委員が写っています。

PTAはどんなものだったのか年表を見て思い出すことは、仲間づくりと地域の知り合いづくりです。今もこのメンバーとは繋がっているので、知り合いづくりが、私にとってPTAの中で一番大きな財産だったと思います。PTAがなくても、仕事場にお友達がいるからいいという保護者もいると思いますが、会社を辞めたあとに、葛飾区に知り合いがいなくなってしまうかもしれません。スーパーに行っても誰にも会わない、あいさつもしない孤独な生活になってしまうのかなど。

やりますと言って手を挙げたPTAでしたが、今になってみれば、友達がたくさんできてよかったと思っております。以上です。

○議長 ありがとうございます。それではご感想やご質問をお願いします。

○藤野委員 地域に友達がいないという話は、亀有地区だと男性でそういうことを考えている人がいて、会社を辞めたあとに、周りに知っている人がいなくなるので、町会に入ってくれたり、PTAのあと地区委員会に残ってくれたりします。

○竹内委員 やりたいと言ってくれる人はいいですが、どこに声をかけていいかわからない人もたくさんいます。

○藤野委員 町会に入るのが一番いいと思います。

○事務局 なくなった活動に歓送迎会という話がありましたが、生涯学習課ではPTAの支援を行っていて、講師謝礼を補助する制度があって、以前は各学校のPTAの研修部から依頼がありました。最近は申請がありませんが、今でも各学校のPTAに研修部はありますか。

○藤野委員 そもそも研修部とか部が多分なくなっていると思います。

○事務局 いろいろな役割をスリムにしていく中で、以前は生涯学習援助制度という制度を使って、年間数件の申請がありました。保護者がもう一度学ぶ機会、例えば子どものことだけではなくて、人間関係のことや様々な社会課題とかを、みんなで学ぶ機会が研修部には使命としてあって、いろいろなことを学ばれてきたと思いますが、そういうものがなくなりました。

○竹内委員 昔はありました。成人部という名前で、文化祭のときにみんなで何かを制作するみたいな。

○事務局 成人教育部というのをよく聞きました。イベントのときに何かやるとか。

○議長 大学院生の頃、千葉の君津で家庭教育学級という名目で、PTAのところに行って、ものづくりをやった思い出があります。凧作りをやる中で、小さい凧をまず作って、1人で作ったあとに、パネル凧という畳ぐらいの大きさのパネルを作ってそれを組んで、みんなで凧を上げました。

○竹内委員 それは毎年やっていた行事ですか。

○議長 そうですね、その年は私が社会教育主事の方に声をかけてもらってやりました。普段やらない自分たちが楽しいことをやりましょうという企画でした。

○竹内委員 なくなった学校の行事、PTAの行事はもっとあるかもしれません。

○藤野委員 前は小学校の新年会をやっていました。

○竹内委員 働き方改革とかで先生が出て来られなくなったというのもあるのですかね。

○伊藤委員 土日の出勤を管理職から強制しづらいところもあります。

○竹内委員 土日ではなく平日の夜とか。

○伊藤委員 半日勤務だと午後は参加できません。PTA総会自体も集まらないで書面開催とか、足を運ばなくてもいいような流れになって来ています。

○藤野委員 亀有地区では、歓送迎会をごあいさつ会に名前を変えて、PTAを退任された方、新しく加入された方、地域の方が顔合わせを行う会が、去年から始まりました。

○議長 先ほどの友達がほしいという話が印象的でした。

○竹内委員 転勤族だからかもしれないです。

○議長 私はずっとPTAのPではないと言っていますが、町会に入れてもらって何とか頑張っています。先日も食べ物をいただいて、メンバーシップの内側に入れてもらえたと思いました。商店街とかであれば、買うことを通じて顔を覚えていきますが、お金を介さないで人と知り合うというのは、すごく印象的でした。そういう繋がりをルートの1つと捉えるのか、王道として捉えるのか皆さんの考えを聞いてみたいと思います。

○竹内委員 専業主婦で働いていなかったもので、そこしかルートがなく、王道だと思います。買い物に行ったときに商店だったら喋ることもありますが、スーパーだと一言も喋らないです。

○議長 住んでいても区民の人と話さない生活は、一人暮らしだと成り立ちます。役所に来ても、手続きだけであれば話さないですか。

○事務局 区役所は目的があって来るところなので、いろいろなところをめぐって、いろいろなところで話をする人はそんなにいないと思います。生涯学習課には、よくお話に来る方はいらっしゃいますが。

○議長 今、品川区区役所の建て替えをしていますが、来ないで済む区役所を目標にして、手続きをシンプルにして、アプリを使うといったことをやる一方で、私は生涯学習的な観点から、遊びに来る区役所というのも、こういう機能を入れた方がいいということも計画づくりのときに言いました。飲み食いしに来たり、知らない人に出会い、友達ができたりするのもできるといいなと。どんな形になるのか楽しみです。

○竹内委員 川崎市溝口の商業施設に習い事で行っていますが、川崎市はそういうところに子どものお譲りコーナーというのがあって、洋服とかをダンボールに入れて置いてあって、必要な人は持って行ってください、不要な物はここに入れてくださいとなっています。

す。そういうところで、不用品を介してお母さん同士のコミュニティがあるかもしれないと思いました。

○竹内委員 コロナ前は児童館でやっていました。サイズに制限はありますが、不要になった服を持って来てもらって、大盛況でした。みなさん喜んで持って行って行っていました。

○議長 先ほど成人式の話がありましたが、屋台や縁日はまだありますか。

○竹内委員 ないです。以前はあったのですか。

○議長 公会堂の終わりくらいに成人式をやりましたが、そのときはありました。

○竹内委員 ちょうどシンフォニーヒルズができる前に、テクノプラザでやりました。

○議長 足立区民でしたが、小学校時代の子に会いたくて葛飾区に来たら、小学校の同級生に会えて、公会堂を出たところで縁日風の食べ物をいただいて、葛飾区はすばらしいと思いました。いろいろな集まりとか大会に呼ばれた記憶があります。

○竹内委員 ジュニアリーダーがポップコーンを配っていた気がします。

○議長 江戸川の凧あげ大会に行っ、お汁粉をもらった記憶が残っています。人が一緒にその場にいるので、出会い直しもできるなど。

○副議長 友達ほしさにとおっしゃっていましたが、PTAでできる知り合いの独特のよさは何かありますか。

○竹内委員 あの時大変だったとかの思い出話や、あの子のPTA会長はいつもたこ焼きを買って来てくれたとか懐かしい話ができるところです。

○副議長 苦勞を共にしたとか、絆を感じるとかですか。

○竹内委員 そうですね。歌を歌って恥ずかしかったとかの思い出話ができる、そういう会が1年に1回は、中学校PTAと続いています。山形とかの小学校の人とも年賀状の繋がりとかはまだあります。息子が東京にいるから、東京に行ったときには会いましょうと毎年書いてくれます。

○副議長 これだけ連続でPTAされた経験があつて、学校に対する見方が変わったとかはありますか。

○竹内委員 学校によってPTAは全然違うということを実感しています。先ほど言った私立は何もしなくても、交通費もらってお弁当食べて、話を聞くだけ。公立は何時間やってもお弁当も出ません。

○副議長 私立のほうが物足りないですか。

○竹内委員 私立のPTAは要らないのではと思います。それこそ、学校が決まったことを報告するだけの会議だったので。でもPTAがないといけないと思つて、PTAを作っているわけですね。

○増田委員 ずっとPTAや青少年委員とか、ボランティア的に携わっていらつしやることに関して、ご主人からどのように言われますか。

○竹内委員 さすがに週に3回ぐらい飲み会が続くと、1つくらい断ればと言われますが、全部行かないといけないからと答えることはあります。あと、大体会議が午後7時からで、そうすると鍋の日が続きました。土日とかも結構行事で、地区委員会だと子どもが出ていないソフトボール大会に行ったり、子どもが出ていないかるた大会に行ったりして、家にいないことも多いのですが、今はもう諦めています。

○増田委員 結構協力してもらつてやっているのですね。

- 竹内委員 協力はしてもらってないと思います。
- 藤野委員 何をやっているか知らないかもしれません。土日家にいると、今日は家にいるのと言われてしまいます。夫は働いているので、すれ違いが多いです。
- 増田委員 理解がないと成り立たない。
- 竹内委員 転勤族が続いていて、この前まで新潟に7年間住んでいたのだから7年間は何も言われませんでした。
- 増田委員 P T A役員の中に、ご主人がものすごくP T A嫌いという方がいます。子どもをお願いして会に出たり、内緒でP T Aの仕事をしたりとか。
- 竹内委員 ご主人にも手伝ってもらえばいいのでは。
- 増田委員 結局、その方は任期満了までちゃんとされました。
- 竹内委員 主人が反対しているのでP T Aはできませんというのはよく聞きます。P T Aをやると忙しいというイメージがあるのかもしれませんが。実際忙しいですが、忙しい以外にも楽しいこともたくさんあります。ここにいるのは、P T Aをやっている人たちだから、やっていない人の意見も聞きたいです。なんでP T Aをやらないのか、大変だから、時間がないから、フルタイムで働いているからと、それでもP T Aをやっている人はいっぱいいます。
- 私も主人が7年新潟に行っている間に、保険の外交の仕事を5年間やりましたが、P T Aと両立できました。それと同時に、介護も10年間やりました。だから、介護していても、働いていても両立できました。
- 増田委員 無報酬の労働をすることに対する考え方が、昔と違うのではないかと思います。家事は仕事にしたらいくらかみたいな話がありますが、そういう考え方が昔よりも強くなっている部分があると思います。P T Aは労働ではないですが、労働的な捉え方をするので、作業が負担になっている印象が強いです。学校内のアンケートを見ると、フルタイムで仕事をされていて、時間がないというのが圧倒的に多かったです。
- 伊藤委員 私の学校のP T A本部では、ご夫婦で役員をやってくださる方がいて、一家で協力的なので、うまく分担しながらやってくれていて助かっています。
- 竹内委員 ご夫婦でやっているのはあまり聞かないです。
- 増田委員 夫婦でやっていいですかという方からの問い合わせはありました。お願いしている仕事は、疎通がうまくできていないと、進まなかったりして困るので、そのときは、代表をどちらか決めてもらってやっていました。
- 議長 こういう活動を好意的に受け止めている人たちは、特に対価を意識しないと思いますが、これから関わろうとする人にとっては、仕事だと捉えられてしまって、仕事をするのであれば、お金がもらえればP T Aに加入するハードルが下がるのでしょうか。
- 増田委員 例えば、役員をやったら運動会とかで、見やすいところに行けるといったシステムがあれば、入りやすいという意見はあったりはします。やはり、何か見返りみたいなものがあれば入りやすいのは確かだと思います。
- 議長 ミクロな公務みみたいな考え方で、地域を作っていくことを考えるときに、誰かのためになるようなことは、認められていることをやるのであれば、フルタイムで公募する人だけじゃなくて、数時間ごととかでも、こういうことをやったのだから、見返りがあってもいいということが、考えられてもいいのではないかと思います。そしたら、P T A活

動でも地域の活動でも、やった甲斐も生まれるとなれば、腰が引けなくなるのかなと思います。

○**竹内委員** それで不公平さをなくそうということで、一人一役というのが出てきたのかもしれませんが。必ず卒業するまでに1回は何かやるというのがあります。

○**増田委員** 竹内委員のように、PTAの中に知り合いが作れたとか、目的意識があって自ら入る人は、子どもたちに何かやってあげたいという目的意識がある人は、ボランティア精神に富んだ気持ちでやれると思いますが、一人一役で仕方なく入る人は、何か対価がほしいという気持ちになっているのだと思います。これを解消するのは難しいと思います。

○**竹内委員** その分みんなが会費をもっと払うことになり、PTA会費年間2万円、3万円出してくださいとなって、その中で給料が発生するといったようになります。

○**議長** 授業以外の学校運営費は、年間何万円かかりますとなって、自分で行動すると、それがキャッシュバックされるとか。でもそう考えて、本当はいくらぐらいかかっていますと考えたら、活用した人はお金が返ってきて、プラスになるかもしれないという考えもあり得ます。

○**伊藤委員** 今回いろいろとやって、プライスレスな部分、知り合いができたりいろいろな話を聞けたりというところに、すごく価値があると思います。ただ、そこに至るまでに距離があって、一人一役をやってみてそこで先生と交流ができて、楽しそうだといい面が見えたという経験ができたら、次に繋がるかなというところがあります。そこもまだ、足を踏み入れられない方もいて、そこはこちらの課題だと思います。

極論を言うと、運動会の駐輪場の見守りや広報誌も、業者に委託すればいいのではないかという意見が出てきてしまうので、それ以外の価値に目を向けることがなかなか難しいです。

○**事務局** 学校や子ども、地域に関わることに価値があるという考え方に至るまでに、距離があるのだと思います。でも、PTAはわが子が学校にいるので、わが子のためにとかわが子が行っている学校のためにとという気持ちが、地域に住んでいるから地域のためにとというハードルよりも低い感じがします。

だからこそ、子どものために何か活動することや、子どものために地域が何かをすることは、意外とハードルが低いので、取り組むことは多いかもしれませんが、わが子がいるPTAに対しても距離感があるのは、どういう現実なのかなと思います。

○**増田委員** 校内アンケートを見るとまさにおっしゃっていたとおりで、わが子と直接接するイベントのお手伝いはしたい。ただ、地域のボランティアにPTAから出すのは、回り回って子どもたちのためになっているという認識をしていないので、子どもに関わるイベントはやりたいけど、他のものはやりたくないという方が多いです。その認識をしてもらう必要があると思います。

PTAをやると、いろいろな団体が回り回って、自分の子どものためになることが分かりますが、何にも関わってないと、そこまでの思考には至らないのかなと思います。

○**副議長** 葛飾区はこれからコミュニティ・スクールを始めるという話ですが、学校と地域の回り方の知識があまりなく、こういうことをやっていない限り、関係性の全体像を知

らない。どのように回りめぐって、メリットが子どもに及ぶのかが分からない。それを知る機会もないのですか。

○竹内委員 入学説明会のPTAのお話でするところもあります。

○事務局 関心がないのでしょうか。自分の子どもが、学校や地域と関わりながら、どう成長していくか、関わっていくことが子どもの成長に繋がるという認識がなければ、学校に通わせて、勉強ができて、元気に健康で過ごしていればそれで良いということなのでしょう。子どもは子どもの中で関係性は作りますが、そこに対して親が何かをするとか、親がそこに関心を持つことはなくてもいいということなのですかね。

○竹内委員 わくチャレで、放課後子どもたちを見ますが、親が迎えに来たときに、スタッフに挨拶もしないで、いつもお世話になっていますとか、そういう声掛けができない保護者がすごく増えていると感じます。先生も学校で感じることはありますか。

○伊藤委員 本当にお世話になっている方々が地域にいっぱいいらっしゃいますが、お顔とお名前が一致しないことが往々にあって、地域のお祭りに出て、地域の方を招くようになって、子どもも保護者も知ってとなっていくところが、コロナでいったん途切れている部分があります。昨年周年行事がありましたが、すごく交流が盛んになって、交流を継続していこうとなり、できてよかったと思います。

ややもすると、分担されている部分もあると思いますが、これからコミュニティ・スクールという形で、葛飾区もやっていく中で、期待しているというか、地域のことを知る、地域の方も学校に目を向けてくれる期待があります。

保護者はそういう繋がりを知らないところが多いかもしれないです。ロードレース大会やかるた大会を地区委員会がやっていることを理解していない方もいらっしゃいます。スポーツフェスティバルに関しても、教員も参加しているので、学校がやっているのかなという感覚で終わっている方が多いかもしれません。地域の方はこういうところでお世話になっているとかを言うようにはしていますが、お顔とお名前や、この方がこういうことをしてくれているということ、子どもと保護者に浸透させるのは時間がかかると思います。

○竹内委員 どうすれば浸透するのでしょうか。

○伊藤委員 地域の行事に参加している子どもや保護者は、多分顔見知りで個人差があると思います。地域の行事には参加しませんという方もいらっしゃいますし、入学説明会で、PTAに入りますか、入りませんかと言うところが今の時代になっていますから、まずはそこからだと思います。

○議長 大人自身が変化をする存在だということを言われる機会は、少ない気がします。学校という世界を終えたあと、職業的には何かもっとスキルをつけろと言われるとしても、それ以外の部分では、大人になったらそのときに自覚した大人感というか、自分はあまりそれ以上変わらない、変わりうるという感覚を持ちにくい。

それを強制する力はほとんどなくて、例えば、自転車で逆走すとか大人も乗り方が下手ですね。でも、大人に対して、逆走していることを教えるチャンスはなくて、何十歳になっても知識が更新されないままですが、変わりうるし、直せるというところをつつくチャンスというか、それは大人に向けた教育というものの、根本的な考え方の問題でもあります。

○事務局長 人間性というか、多分そういうものは、人との関わりの中で気づいたりしていくもので、だから人と関わらないと、自分に足りないものや自分がこうありたいことが、なかなか見えてこない。そういう意味では、地域活動もPTA活動も、知らない人と触れ合うことで、自分が磨かれたり、自分に足りないものを足していったりすることができるということだと思います。人間はもっと成長するし、大人になっても変わりゆくものという発想もないし、関わりがなければそういうことにも気が付かないしということですかね。

○竹内委員 生涯学習ですね。

○事務局長 そうです。だから、いろいろな人と関わるのが大事だと思います。

○議長 少なくとも先ほどの話でいけば、学校に親として関わるというスタートのタイミングで、そういう話を伝えるチャンスだと思います。PTAまで関わるかの前だとしても、子どもと一緒に自分自身も成長していく、少しでも聞いてもらえるチャンスだと思います。普段はそういう機会はないわけです。

大学でも初年次教育というのをやっています。入学したら中身の話の前に、大学生活ではどんなことやっていくのか、その学び方の学びの授業のようなものがあります。PTA 1年生研修ではないですが、初回にはせっかく来てくれた人たちに伝えるチャンスだと思います。役割の前に、親御さん自身に伝わるようなメッセージが持てればいいなと思います。

○竹内委員 自分たちは子どものとき、いろいろな行事がありましたが、そういうのは全部、地域の人が協力してくれています。皆さんも親になったので、その順番ですと伝えるとか。

○藤野委員 なかなかそれは難しいかもしれません。もう何回もそうやってきました。

○議長 1人では生きていけない、社会の構成員であるという、本当にそこに会える強制力を一瞬でも持てるのは、本当に学校に出会うスタートのときなのかなと思います。

ここで一旦区切りとさせていただいて、続いて藤野さんからご報告いただいでよろしいでしょうか。

○藤野委員 よろしくお願ひします。現在民生委員・児童委員（以下、民生委員という）をやっております。それと、青少年育成亀有地区委員会の会長もやっております。民生委員の方が長くて、もう15年ぐらいやっております。

民生委員推薦で地区委員会にも入っておりますので、どちらかというとは本当は民生委員の仕事を優先させなければいけないのですが、今会長をやっておりますので免除してもらいながらやっております。その関係で、学校評議員を中之台小学校と一之台中学校でやっております。

PTAのことで、もう十数年前になりますが、中之台小学校で書記を2年、副会長を2年やりました。当時は人数が少なく、全学年1クラス、1学年30名程度の学年もありました。必然的にPTA役員も少なく、会長1名、副会長の男性が2～3名。女性が書記、会計、会計監査の10名で回っていました。当時は、女性は10名で決まっていました。人数が少ない分まとまりがありました。

書記をやっていると、2年目になると先日話が出た筆頭になります。筆頭とは女性の取りまとめ役と会長との連絡役のことです。当時の中之台小学校は、男性社会で、会長と副

会長はほとんど男性がやっていました。私が女性で副会長になるのは、本当にイレギュラーなことでした。

いろいろと大変な面もありましたが、今思えば本当にいい思い出です。中の人全員がそう思っているかどうかは分かりませんが、私は中之台小学校卒業をしていますので母校へ恩返しという気持ちでやっていました。

現在、民生委員としては、小地域福祉活動をやっております。これは、社会福祉協議会からの依頼でやっているもので、引きこもりがちなお年寄りを何とか外に出すために、各地区でイベントなどをやって盛り上げていく活動です。他には、地域からこういうお年寄りがいますがどうしたらいいですかなどの相談を受けたときに、行政に繋げて、必要があれば私が出ていくという形をとっています。

あとは、児童委員でもあるので、児童への支援もありまして、コロナ前は、校長先生や副校長先生から、連絡が取れない保護者や約束しても来ない保護者がいるので、見に行ってもらえませんかといった依頼が結構ありました。コロナ後は落ち着いているのかどうかは分かりませんが、依頼がなくなりました。

保護者の所に行くのに、海外の方も多いので、日本語が通じずに困ったことがあります。オートロックのマンションで、民生委員が何か分からないので、開けてくれない。開けてもらえるまで、何回も学校の先生と行って、やっと開けてもらったという苦労話を聞いています。学校から子どもと一緒に帰って、子どもと一緒に中に入って、保護者に会ったという話も聞いています。

次に、青少年育成亀有地区委員会の話になりますが、定期総会、スポーツフェスティバル、少年の主張大会、ロードレース大会、新年会、かるた大会など、区の行事のお手伝いをしています。行事に関しては、学校との関わりが大切になってくるので、校長先生、副校長先生、PTA会長とは、各行事のときには顔を合わせるようにして、信頼関係を築かせてもらっています。そうしないと、どの行事も進めていけないところがあります。

何かあれば学校に足を運んで、先生方、PTA会長、PTA役員と顔を合わせて、よろしく願いますと頭を下げて、信頼関係を築けるように努力しています。

コロナ前は、この行事にはこの人数を集めてくださいと依頼すると、大体集まりましたが、行事によってはコロナで3年止まっていますので、何の行事ですかと言われてしまいます。前のPTA会長もやってなかったりするので、なかなか意思疎通が大変でしたが、やっと各学校にも行事について理解していただけてきたところです。今年はスムーズに進むといいなと思っています。

行事はすべて土日祝日なので、大変なところはありますが、校長先生、副校長先生は、児童が出ている学校はすべて来ていただいているので、その辺は感謝しています。担任の先生まで来てくださいますとは言いませんので、何かあれば迎えに行きますから、何とか子どもを出してくださいと言っています。

少年の主張大会やかるた大会は、出す人数が少ないので何とかあります。スポーツフェスティバルだけは、綱引きに何人、リレーに何人で学年も指定されるので、そこが頭の痛いところです。リレーはお父さんとお母さんが1人ずつ走りますが、そこも集めるのが大変で、私たちはどの方が走れるのか分からないので、そこはPTA頼みになってしまうところがあります。

子どもが何かに出てくればいいのですが、子どもが出ないでお父さん、お母さんが出るのは難しいところがあります。学年が決められているので、下の学年のお父さん、お母さんだと子どもが出られない。競技以外にも屋台とかがあって来ると面白いですが。そこから辺のハードルが高くて、毎年苦勞するところです。

ロードレース大会は自由参加なので、最近はお出の子が少なくなりました。1位から6位まで入賞ですが、走れば全員が入賞する学年もあります。そこは私たちのPR不足でもあります。PTAの役員は、ロードレース側のお手伝いで、順位付けや参加賞を渡したりするので、子どもを連れて来るのが難しいです。3, 4年生以上になれば一人で来ますが、朝早いので低学年は難しいです。その辺もPTAの方とPRのやり方を考えないといけないと思っています。

生活の中のPTAですが、校長先生とPTA会長の関わり方が大事になっていまして、本当に信頼関係をうまく作っていかないと、何事も頼むのが難しいと思います。1回頼んだら募集の方法とかは、学校側に任せています。私の名前が必要であれば使ってくださいということで、やり方に関しては学校がやりやすいほうでいいのかなと思います。

児童委員としての関わり方と、地区委員としての関わり方は全然違って、地区委員は行事のお願いで学校に行きますが、児童委員だと問題のある児童のデリケートな話になってしまうので、その辺の、頭の切り換えが難しいです。近所の方から、こういう子どもがいると言われても勝手に動けないので、学校や区に話をし、そちらの指示を仰ぎます。そのような形で校長先生やPTA会長と関わらせていただいています。

できれば、校長先生、副校長先生以外の先生と関わっていきたいと思っています。行事関係だと、校長先生よりも担任の先生のほうが、子どものことをよく分かっているので、高学年の先生方との関わりがもっとあると楽なのかなという気がします。

わくチャレもやっているのですが、地元の中之台小は覗いたりできますが、ほかの2校は校長先生、副校長先生以外の方と関わる機会がないので、もう少し努力をしていけると、各行事に児童を集めやすいのかなと思います。運動会を見に行くと、走るのが速い子をチェックしていますが、名前も分からないので、担任の先生と関わっていれば、あの子速いねとか話ができるのかなと思いました。

PTAはこうあってほしいと願うことでは、PTA本部は存続していただきたいです。学校と地域の橋渡しとさせていただけると、本当に助かります。リレーでお父さん、お母さんが出るときに、私たちは全然分かりませんので、できればPTA本部だけでも残っていただいて、私たちの力になっていただけると、とても助かります。

私たちにできることは、PTAの方も遠慮なく言ってほしいと思います。例を出しますとかるた大会の予選会、予選会に出てくるのは各校1組ずつ。3年生の部1組、4年生以上の部1組。出たい子が何組もいると、学校内で予選会を行います。審判が足りないとか、ルールが分からないといった事態が結構起きているようなので、こちらに言っていただければ人を派遣しますので、遠慮せず言っていただければと思います。

ある町会から、餅つき大会を手伝ってほしいと言われていましたが、亀有地区は30町会あるので、それは手が回らないので困りますが、お願いしていることに関しては、協力は惜しみませんので、遠慮なく言っていただいて、お手伝いさせていただければと思います。

私たちの活動の中では、PTAはなくてはならない存在なので、今後ともお互いに協力し合う関係を作れたらと思います。以上です。

○議長 ありがとうございます。

○竹内委員 本当にスポーツフェスティバルは大変ですよ。私の地区は、今年のリレーは上千葉小、綱引きは白鳥小のように決めています。地区に学校が2校しかないのも、そのように分けています。

○藤野委員 私の地区は1校で集めています。1校にすれば、先生が交代で行けばいいので、校長先生も毎年だと大変だから、1校に集めればあとの2校の先生は休めるので、校長先生の間でそういう決まりにしているようです。

今回はこの学校で綱引きとリレーをすると決めましたが、揃わなかったのも、私の一存で他校にお願いしたら、怒られてしまいました。人数が足りなくて棄権というのが一番かわいそうなので、ビリでもすべての競技をやらせてあげたいと思いました。亀有地区は、参加することに意義があるという考えなので、棄権だけは避けたかったので、PTA会長にお願いをしました。何とかお願いした人数を揃えてもらって、出場しました。

スポーツフェスティバルは、人数が決まっているので、このグループを誘うと増えすぎてしまう。補欠も参加賞も2人までしか認められていないので、行ってももらえない子がいるのはかわいそうで、なかなかそこが難しいです。

○伊藤委員 地区委員会によって、所属する小学校の数がバラバラですよ。1地区に1校のところもあれば、5～6校のところもあります。3種目を輪番制で、今年は綱引きに出て、来年は何も出ない、3年後にリレーが来るとかそういう感じです。

○竹内委員 学校対抗とかにするのはどうでしょうか。

○伊藤委員 本当に気合を入れて練習している学校もあって、すごい差があります。

○事務局 地区委員会単位は難しいですよ。でも、そこが面白いところでもあると思います。切磋琢磨をすることによって、強くなっている地区があるのは事実なので、その面白さはすごく感じます。

○藤野委員 かるた大会は、子どもたちが負けると泣いてしまって、こっちも泣けてきてしまいます。

○伊藤委員 予選を勝ち抜いた学校と予選なしで出た学校だと、気合が違いますよね。

○事務局 でもそこが、かるた大会を仕掛けた1人としては、醍醐味だと思います。学校ではない地域の大人たちが、子どもたちを支える仕組みは、苦労がすごくあって大変だと思いますが、地域の大人が子どもたちを支えて、いつかはその子どもたちが地域を支える人になる。そういう循環がうまくできるといいなと思います。だから、そろそろ大会にも、選手として出ていた子たちが、大会を支えていく側になるタイミングなので、そういうことができるといいなと思います。

○伊藤委員 中学生が読み手をやったりして。

○事務局 一部中学生が出てきているので、読み手も審判も子どもたち、高校生や大学生がやる大会ができると面白いと思います。地域の大人が応援する形にしていくと面白いと思います。

○藤野委員 審判は大変だと思います。子どもたちは真剣なので、曖昧な判断をするとじっと見てくるので、あの視線に耐えないといけない。

○伊藤委員 前任校では予選会の際に、地区の方が審判に来てくださったので助かりました。どちらかの学校の教員がやるよりも、ルールをちゃんと分かっている方がやってくれるのはありがたいです。子どもたちは忙しいので、集めるのが課題です。スポーツフェスティバルに出てほしい子がいても、サッカー大会があるので無理ですとか。

○藤野委員 スポーツの日なのでいろいろな大会があるので、スポーツクラブに入っている子は参加できません。

○伊藤委員 綱引き大会に去年、一昨年と参加させていただきましたが、スポーツ推進委員の方が練習に付き合ってくれて、それでいい成績が残せました。地域の方に教わって、子どもたちもいい経験をさせていただいた。集め方をPTAの方と相談してやっていく中で、ひと手間二手間ありますが、達成感があるかなと思います。

○藤野委員 綱引きの綱はありますか。

○伊藤委員 学校に運動会で使う綱があります。

○藤野委員 綱が切れてしまって練習ができません。大縄の縄は区で貸してくれますが、綱引きの綱は貸してくれません。

○議長 水元にあるボルダリングとかは種目にはないですか。小さい頃、登るのだったらできたと思うので、出番があれば活躍したいと思えたかもしれません。今、私が子どもだったら、かるた大会に出ていると思います。そういう意味では、いろいろな出番があったらいいなと思います。

でも、学校以外でいろいろ用意されるという話を聞いて、本当に大変なことだし、あらゆる種目に、軒並み出ていただくこと自体も、すごいプレッシャーにもなっているようにも聞こえますし、子どもたち自身も奪い合いになって、それもどうするのだろうと思いました。走るのが速い子は引く手あまたになってしまいます。

○藤野委員 そういう子はスポーツの日は空いていないです。

○竹内委員 スポーツの日以外でやるのはどうでしょうか。

○議長 葛飾スポーツの日を別に作るとか。

○増田委員 スポーツをしない子にも、スポーツをしてもらう日にするとか。

○伊藤委員 種目以外でも、いろいろ体験できるブースがあるので、遊びに来てくれるお家も結構あります。

○藤野委員 行けば絶対楽しいです。

○増田委員 イベントもいろいろやっていますし。

○竹内委員 各地域からスポーツセンターに連れて行ってくれる送迎バスがありますが、帰りが早過ぎて、閉会式の5分後にバスが出てしまうので、決勝まで残ってしまうと時間がなくなってしまいます。この前お花茶屋が3位になりましたが、写真を撮る時間ありませんでした。亀有なら無料のバスがほかにもあるので、このバスに乗れなくても問題ないですが、お花茶屋の場合は、青砥までバスで行ってそこから電車でお金を払って帰るしかないです。お昼のバスを逃すと次は17時のバスになって、それも堀切菖蒲園までしか行きません。

○藤野委員 保護者が来てくれれば、引き渡しができますが、来ない子は連れて帰ります。昔は閉会式が16時でしたので、予選で負けると何もやることなく、子どもたち

は14時とかに帰しますが、地区委員会の5～6人は最後まで残らないといけなかったです。今は閉会式が13時30分頃になりました。

○竹内委員 地域の行事を午前中にやって、午後は自由に参加できるようになりました。

○増田委員 子どもはスポーツフェスティバルの存在を知っていますか。子どもから参加したいという話を一度も聞いたことがないです。学校内でどうやって子どもを集めていたのか知りませんでした。先生がスカウトしていたのでしょうか。それも学校によって違うのですかね。

○伊藤委員 種目によっても違うと思います。リレーは各学年から出さないといけないので、希望は取るけど選抜しないとイケないですし、綱引きは募集して足りなければ、また声を掛けるとか。

○竹内委員 声掛けして1・2年生の小さい子ばかりになってしまうと、綱引きで負けてしまうので大変です。

○藤野委員 リレーは4～6年生の男女ですが、4年生の枠に3年生が入ってもいいので、どうしてもいない場合は、PTAの3年生の子に出してもらいます。差がついてしまうので、かわいそうですが。男の子のところに女の子が走るのはよくて、女の子のところに男の子が走るのはできません。

○副議長 地区委員会のイベントに子どもが出ると、通知表とかに書かれるのですか。

○伊藤委員 少年の主張大会とかで、本選に選ばれたとかだと書きます。

○副議長 記入欄はあるのですか。

○伊藤委員 特にないです。教育課程の中のものではないので。

○事務局 地域行事は、子どもたちの関わりが多くて、そこに教員が関わる形になっているが、教員が子どもたちを評価する形になっていない。

○副議長 それだからいいというものもありますが。

○伊藤委員 だから嫌なのではないかという意見が出てしまったりもします。

○事務局 そこが結構微妙ですね。

○伊藤委員 教育課程にとらわれると、この行事はどこに位置するのですかとなってくるので、そうではない地域との繋がりということにしていけないと。

○事務局 学校を軸とした子どもたちの選抜は、外国ではあまりなさそうですね。

○副議長 こないだの学区の話に似ている気がします。

○事務局 そうですね。やはり学校が地域の中心にあるのは事実なので、地域が学校を支えるというのは、よく言われるのはそういうことだと思いますが、そこが、実際に子どもたちを送り出している保護者たちには、あまりそういう意識がなくて、ギャップがあります。

○藤野委員 亀有地区ではロードレース大会のときに、コロナ前までは3校対抗リレーというのがあって、1年生から6年まで男女別のチームで競いました。すごく盛り上がっていました。ただ、コロナ後にやろうとしたら、1年生から6年生まで集めるのは無理ですと先生に言われてしまいました。本当はやりたいのですが。

○竹内委員 それで優勝すると、奥戸で走れるような権利を与えるのはどうですか。

○藤野委員 それがいいのかどうか。学校を背負っていて面白かったです。子どもはそんなことは思っていないかもしれませんが、私たちはそれぞれの出身校で盛り上がっていました。

○事務局 かるた大会はそんな感じみたいですね。地区に複数校あるところは、ライバルで、出られるのは1校なので、盛り上がっている校長先生や担任の先生をよく見かけます。

○議長 すぐには繋がらないと思いますが、個人の達成というか、わが子というところから見ると、今の話を聞く限り、エネルギーがわくので、

○事務局 わが子のことになると違います。

○議長 先ほどから出ている、回り回ってというのは、どんなふうにリンクするのか、この先も考えていきたいと思います。尽きない話ですが、そろそろ時間が来たので、区切りにさせていただきたいと思います。竹内委員、藤野委員ありがとうございました。それでは、事務局から次回以降のお話をお願いいたします。

○事務局 次回は3月6日金曜日の午後2時から、706会議室で行います。発表者は伊藤委員と千葉委員のお二人です。資料がございましたら、事前に事務局にご連絡ください。また、次年度の日程については調整中ですので、正副議長と調整をして、日程を決めさせていただく予定となっております。決まり次第、お知らせをさせていただきます。ぜひ3月以降もご出席いただいて、協議ができればと思います。よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

○議長 それでは、本日は閉会といたします。ありがとうございました。